

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	40	大学等名	岡山大学
テーマ	テーマⅢ (入試改革)		

【総括評価】

B：一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

【コメント】

<優れている点>

- ・本プログラムによる入学試験が全学的に導入されたことは評価できる。また、野心的なプログラムであり、課題等も多々明らかになっているが、大学全体の体制としては順調に整備されていることは評価できる。
- ・本プログラムの実施に関しては、学内の実施体制、評価体制の整備、PDCA サイクルのいずれも適正に体制が整備されている。また、国際バカロレアの教育コア科目と位置付けられている「知の理論」を翻訳するなど、事業全体としても着実に進捗していることは評価できる。
- ・選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組として、60分授業4学期制、教養教育改革など、良い取組がなされていることから、成果が期待でき、評価できる。

<改善を要する点>

- ・国際バカロレア認定校の指定が遅れているために、規模が当初の目標からは不十分な水準に留まっている。岡山大学だけで解決できる問題ではないが、大きな課題として残っている。英語以外に日本語 DP が認められたことで、国際バカロレア認定校の増加が見込まれるとのことだが、国際バカロレア入試による定員を全学生定員の5%とするといった最終目標の達成には、厳しい状況が予想される。目標達成に向けた取組を更に進める必要がある。
- ・国際バカロレアの制度や仕組みを継続的に調査・研究され、提出された成績・評価に全幅の信頼を寄せているとのことだが、入学者選抜にあたっては、本大学の AP との整合性を取りつつ、大学として、国際バカロレア入試の入学者に期待するミッションを明らかにする必要がある。